

家蚕と天蚕 3.

日本のヤマムユガ科

鈴木英文

日本に分布するヤマムユガ科にはヤマムユガ亜科10種とエゾヨツメ亜科1種の計11種が分布し、ヤマムユガ亜科10種はヨナグニサン族2種とヤマムユガ族8種に分けられます。

ヨナグニサン(*Attacus atlas*)日本では先島諸島に分布し、沖縄県の天然記念物に指定されています。国外では台湾、中国～インド、インドシナ半島～スダラランドまで広く分布し、世界最大級の蛾として有名です。以前台湾や沖縄では繭を加工した小銭入れが売られていました。

シンジユサン(*Samia cynthia*)北海道から沖縄まで広く分布し、ミュージアム裏の「小鹿の森公園」でも幼虫を採集したことがあります。静岡では5月頃に発生しますが、その卵を飼育すると8～9月に親になるものと、そのまま冬を越し翌年羽化するものがあります。

オオミズアオ(*Actias aliena*)北海道から九州まで分布し、青白色を帯びた翅で、尾状突起が長いのが特徴です。この仲間は、種小名にルナ、アルテミス、イザベラなど女性(女神)名がつけられているものが見られます。

オナガミズアオ(*Actias gnoma*)北海道から九州までと伊豆諸島に分布し、オオミズアオに非常によく似ていて、慣れないと区別が難しく、静岡県ではオオミズアオよりやや山地で見られるようです。平地では桶ヶ谷沼のハンノキでよく発生します。

ヤマムユ(*Antheraea yamamai*)北海道から沖縄まで分布し、成虫の色彩は黄色、赤褐色、灰色を帯びたものなど変異が多く、一見別種のようにも見えます。年1回8月から9月に羽化し、卵で冬を越します。長野県などでは飼育され、繭から天蚕糸を生産しています。

ヒメヤマムユ(*Saturnia jonasi*)北海道から九州、対馬、屋久島まで分布し、年1回秋に羽化し、卵で冬を越します。

クスサン(*Saturnia japonica*)北海道から沖縄まで分布し、幼虫は大型のケムシで、白色の長毛が生え、シラガタロウ、繭は硬くて荒くスカシダワラと呼ばれています。地方によっては老熟幼虫の絹糸腺からテグスを採った記録もあるようで、年1回秋に羽化し、卵で冬を越します。

ウスタビガ(*Rhodinia fugax*)年に1回秋も遅くなってから羽化し、繭は緑色で枝からぶら下がりよく目立つことから、ヤマカマスと呼ばれています。

クロウスタビガ(*Rhodinia jankowskii*)北海道から九州まで分布し、年1回秋に発生し、ウスタビガより山地性、北方性で、静岡県では珍しい種類です。

ハグルマヤマムユ(*Loepa sakaei*)奄美、沖縄に分布し、翅は鮮やかな黄色で、南西諸島の固有種ですが、同属の他種は東南アジアに多数分布します。

エゾヨツメ(*Agria japonica*)北海道から九州まで分布しますが、山地性、北方性で静岡県では井川県民の森や御殿場などで見られます。年1回春に出現し、蛹で冬を越します。



ヨナグニサン♀ 伊丹市昆虫館



繭に止まるウスタビガ 長尾川 平井剛夫氏撮影